

見つめる目 しなやかな心 医療を支える 看護の手	看護部だより	2015 年 05 月号 第 289 号	特定医療法人衆済会 増子記念病院 看護部 部長 上村 志磨子 (認定看護管理者)
--------------------------------	---------------	----------------------------	--

平成 27 年度看護部 方針・目標

振り返ろう、看護の原点！充実させよう、チーム医療

看護部長 上村 志磨子

新年度が始まり 4 月・5 月は、イベント事が多い月ですね。特に 5 月は、1 日がメーデーそして憲法記念日、みどりの日、こどもの日と 4 連休でした。新入職員にとっても、リフレッシュができる良い時期です。皆さんはこの連休を、どのように過ごしましたか？良い思い出作りができましたか？そして 5 月は、もう一つイベントがありますね。第 2 日曜日の 10 日は、母の日です。母の日といえば、カーネーションが一般的ですが、カーネーションの花言葉を知っていますか？「(赤) 愛を信じる」「(白) 私の愛は生きている」「(ピンク) 熱愛」だそうです。愛を表現するものが多く、お母さんへ愛と感謝を伝えるのにぴったりの花だといわれています。「いつもありがとう」という感謝の言葉を伝えることは、とても良いことです。「ありがとう」という言葉は、素敵な響きであり幸せな気分になります。母の日に限らず、またお母さんにだけでなく、そのときどきに誰かに感謝の気持ちを伝えてみてください。きっと伝えられた人も、伝えたあなたも幸せな気分になりますよ。

1 今年度の事業計画・方針

さて、平成 27 年度がスタートし、あっという間に 1 か月が過ぎました。

4 月 5 日の全体会議において病院経営方針、病院診療方針と事業計画及び予算についての説明がありました。第 2 部においては、医師を中心とした各部門代表による討論会でした。それぞれの立場での現状と重点課題や取り組んでいくことが、示されました。多くの職員がこの場に参加し、病院方針・各部門の事業計画について理解することとなり、自らは何をすべきか考える良い機会となったことと思います。

2 人事考課面接

ちょうど今、人事考課期末面接の時期です。合わせて平成 27 年度の目標設定の時期でもあります。病院の方針に則り看護部の目標も設定しました。

3 「WLB」ワークショップ

平成 27 年度から 3 年計画で「看護職の WLB 推進事業ワークショップ」に参加します。昨年と同様、6 月にインデックス調査を実施します。その調査結果の分析をもとに、8 月より総務課とともにワークショップに参加していきます。皆さんと一緒に、働きがいのある職場環境作り、看護職の離職率の低

下、人材の定着促進に取り組んでいこうと考えています。

4 データベース事業

もう一つ、昨年に引き続き「労働と看護の質向上のためのデータベース事業」への参加が決定しています。昨年の 10 月～12 月のデータについては、ベンチマーク評価システムを通じ病棟間および他施設との比較ができますので参考にしてください。

また、平成 27 年 1 月～3 月のデータ入力期限は、5 月 15 日となっております。それぞれの担当者は、入力をよろしくお願いいたします。

5 教育の見直し

4 つ目の目標として、看護部の教育（新人教育、クリニカルラダー、管理者教育）のあり方、内容について見直しを考えています。

病院の方針、事業計画と看護部目標を受けて、看護部各部署目標と業務計画が設定されています。そして皆さん一人ひとりも、人事考課面接において平成 27 年度の目標が明確となり取り組みを始めたころだと思えます。

目標は、設定するだけではいけません。1 年後良い成果が得られますように、計画的にしっかりと取り組んでいってください。

平成 27 年度もどうぞよろしくお願いたします。

以上

<平成 27 年度 看護部行動理念>

振り返ろう看護の原点、 充実させようチーム医療

目標

- 1 信頼される良質な診療を提供するために、看護職の役割と責務を明確に示し当院が目指す看護を実践する
- 2 「労働と看護の質向上のためのデータベース事業」を活用し、看護実践の強化を図る
- 3 「看護職の WLB 推進事業ワークショップ」に参加し、働きがいのある職場風土作りに着手し、看護職の定着促進につなげる
- 4 看護部教育の見直し（新人教育、クリニカルラダー、管理者教育）

結婚・出産・子育て・・・「いつか来た道」（2015 年 4 月号）を読んで、女性は働きながらも様々な役割を担っていかねばならないと思いました。そのためには、家族であったり職場といった協力が必要不可欠だと改めて感じました。女性の多い職場だからこそ、働きやすい環境を整えていくことは必須だと思います。病棟の場合、定時に帰れないことが多くあります。また、看護師であるという責任感から、与えられている仕事以上に業務をこなしてしまいがちです。そんな時、それぞれの立場で周囲が気を配りながら、声をかけあうことが必要となってくるのではないかと思います。そういった職場の雰囲気であれば、みんなが働きやすいと感じることができると思います。まずは声をかけることから始めたいと思います。私事ですが、去年の夏に 1 日だけでしたが訪問看護にお邪魔させて頂きました。短い時間でしたが貴重な良い体験となりました。訪問する前に、寺本所長よりオリエンテーションをして頂きました。訪問看護に対する熱い思いを語っている姿が印象的でした。訪問看護スタッフに同行させて頂き、在宅での生活を知ることができました。限られた時間の中で業務をこなし、無駄のない動きを見て、ただただ圧倒されたことを今でも覚えています。家族背景は違っても、訪問看護を利用されている方の表情を見て家族に愛されながら過ごされていることを感じる事ができ、感動しました。

3 階病棟主任 内山 裕子

学生コーナー

<4 年生になって①>

外来学生として学んだこと

看護学生 山口 優美

私が名古屋に来て 4 度目の春を迎えました。看護学生としても最高学年となり、5 月からはローテーション実習で様々な場所へ実習させていただきます。

私が増子記念病院に来て学校に通いながら外来学生として勤務させてもらったなかで身につけたと思うものがあります。それは、患者さんがどう感じているのかを知ろうとする姿勢、患者さんから得られる情報を最大限活用できるように行う情報収集能力、外来診療が円滑に進むように周りを見て行動する力です。

はじめは患者さんの言う「咳と鼻水が出る」という症状を聞いてもそのことだけをカルテに記述して、あとから不足分を再度患者さんに確認しに行くことがありました。

たとえば、体温を測定してもらって患者さんのいつもの体温と変わりがなかったとしても、解熱剤の作用によって変わりがなければなりません。周りにインフルエンザに罹った人がみえたらインフルエンザの可能性も考えられるので待機室に待機してもらう方がよいかもしれません。そのようなことを一度で患者さんからお話を伺えるように疾患の症状を日々勉強しました。

また、外来は採血の結果が出てからの診察や、レントゲンなどの検査が診察の前後にあることがあります。そのため、検体やカルテ

の運搬が円滑に行なわれないと患者さんの待ち時間が長くなってしまいます。

そうならないよう意識することで、徐々に目配り気配りができるようになっていきました。

学年が上がるにつれて後輩が入ってきて業務の内容を指導する立場になって気が付くこともたくさんあり、うまく教えることができていないと感じることもありましたが、出来ることが増えていく 2 年生・3 年生を見ていると頼もしく感じます。

援助技術は病棟勤務よりは実施する機会は少なく、外来は違うと感じていましたが、ほかのところでの成長があると思います。

これからたくさんの実習に行き、また 1 年後には看護師として働いていくなかで、外来勤務で学んだことを活かしていきたいです。

以上

<4 年生になって②>

この経験を活かします

看護学生 田川 優粋

早いもので私が名古屋に来て、増子記念病院に就職して 4 年目となりました。18 歳で右も左も分からない土地に来て、初めて患者さんや看護師さんに関わり、病院という施設で社会人として働きながら、看護師になるために勉強をしてきました。

時には仕事も勉強も嫌になり、なんで看護師という決して楽ではない道を選んだのだらう…と思った日もありました。しかし、友人や先輩、看護師さんに支えられてここまで来ることができたと思います。

正直、私は最初何となく看護師になりたいな、という気持ちでいました。1年生の頃は、先輩や看護師さんの見様見真似で患者さんの援助を行ってきました。

学年が上がるにつれ、学校で学習した看護や援助の根拠、対象の個別性に合わせた方法などを知り、どのような方法がこの対象に適しており安全安楽であるのかなど考えるようになりました。また、病院で働いていると顔と名前を患者さんに覚えて頂いており、「頑張っているね」「久しぶり」などの声を掛けて頂くことはとても励みになりました。更に、看護師さんともよく話すようになり、この対象にはなぜこの援助が必要なのか、どんな対象でどのように関わればいいのかなどを教えて下さり、病院でも学習をすることができました。私に関わって頂いた全ての人に本当に感謝しています。

私は今年で 4 年生になり、最終学年となりました。5 月からはたくさんの実習が始まりますし来年の 2 月には国家試験が控えています。実習では、今までの学習の集大成だと考えて頑張りたいです。また、とても残念なことですが自分自身の成長の為と様々な看護の現場をみたいと思い、増子記念病院を退職させて頂くこととなりました。

未熟ではありますが増子記念病院での経験を活かして、新しい環境でも日々努力を惜しまずに精進したいです。長いようで短い 3 年間ではありましたが、たくさんの人々に支えられて成長できたと思います。本当にありがとうございました。増子記念病院が恋しくて戻ってきた時は笑顔で迎えてください。

以上

<4 年生になって③>

出会いと別れを経験して

看護学生 伊藤 茜

私はこれまで生きてきた 20 年間の月日の中には、どれだけの多くの人との出会いと別れがあったらう。出会いと別れを経験したことで、私は自分の中に揺るぎない看護師という夢を持つことが出来ました。

まず、私が看護師を志すきっかけとなったのは祖父との別れです。別れとは思ってもよらないような瞬間におこるもので、昨夜はいつもと変わりなく笑顔を見せ何気ない会話を交わした祖父が、翌日には 2 度と会えない存在へと変わってしまいました。祖父の死はあまりにも突然すぎて、すぐには受け入れることができなかつたのを覚えています。

明日が来ることが当たり前で、自分には遠い存在だと思っていた死を目の前で実感して、初めて人間の命はこんなにも儂いもので、生きているというものはいくつもの偶然が重なった奇跡のようなものだと思います。その日をきっかけに、“白衣の天使”という言葉がぴったりで漠然と憧れだけで看護師を夢見ていた自分と決別することができました。

看護師は生と死が混在する医療の現場で、闘病中の患者さんの希望の光となれる尊い存在だと思います。生きたくても生きられなかった祖父はもっと伝えたかったメッセージがきつとあったと思います。だから、生きようとされている患者さんの想いやニーズを最も身近でくみ取り、生きていることに喜びを感じてもらえる手助けができるような存在となり、生命を支えたいと思うようにな

平成 27 年度看護部行動理念 「振り返ろう、看護の原点！充実させよう、チーム医療！」

り看護師を志すようになりました。

次に、病院実習で受け持たせていただいた患者さんとの出会いについてです。

この患者さんとは、現実を受容しきれずに感情失禁がみられることもあった不安定な時期に出会いました。それにも関わらず、笑顔で私を迎えてくださり、患者さんのありのままの思いをまだまだ拙い看護技術や知識しかない私に話してくださりました。そんな患者さんに私は何が出来ているのだろうかと苦悩していた時に、「あなたの笑顔と優しさが励みになっている。立派な看護師になってね。」と言葉をいただきました。その時、患者さんの支えになれているんだと実感することが出来たと同時にこれから先、出会う患者さんと接していく上での根本に気付けた出会いとなりました。

最後に、生と死を身近に実感しながらの看護師という職業を志したからにはこれから先、辛い出来事や苦勞が待っていると思います。それでも自分が信じた道、自分で選んだ道を誇りと感謝の念を抱いて進んでいきたいと思っています。

以上

<4 年生になって④>

別れを経験して

看護学生 林 江莉子

4 月から、待ちに待った最終学年である 4 年生になりました。ここまでの道のりはとても長く、学業と仕事の両立の大変さに心が折れてしまいそうな時が何度もありましたが、何とかここまでやってくることができました。私の周りで支えてくれた友達や、心配をして声をかけて下さった看護師さん、悩みや相談を聞いて下さった患者さ

んななど私に関わってくれた方のおかげで今の自分があると思います。

本当に感謝しています。4 年生の 1 年間は色々な領域の実習がまだまだ続き、実習が終わったら本格的に国試の勉強をすることになります。

また、実習の途中でケーススタディーを完成させなければいけないので、今までに経験をしたことがない程、忙しい 1 年になると思います。忙しく、大変だとは思いますが、得るものを沢山得て実りのある 1 年にしたいと思います。

実習では、患者さんと接することによりコミュニケーションの方法や看護技術の向上を目指したいと思います。患者さんの疾患の理解がしっかりとでき、その患者さんにはどんな観察が必要で、またどんな援助が必要なのかをつなげることができるようになる為に、1 つ 1 つの実習を大切に、学びを深めていきたいと思います。

各実習病院での指導者さんや、スタッフの方々の働き方や、患者さんとのコミュニケーションの取り方や助言など見たり、聞いたり五感を十分に活用して、色々なものを得たいと思います。そして今後、自分はどんな看護をしていきたいのか、どんな看護師になりたいのかを明確にしていきたいと思っています。

私は最終学年となりなしたが、今年も新 1 年生が入ってきてくれました。新 1 年生を見ていると緊張感があり、初々しさを感じ、自分もそんな頃があったなと少し懐かしく思います。看護師を目指そうと思った時の気持ちを振り返ることができ、それと同時に最終学年までくることができたと実

感できました。

入社したばかりで病院という場所にも慣れず、看護助手の仕事内容も分からず不安なことがあると思います。また、学校での友達作りや、慣れない授業に色々と大変だと思います。何か悩みがあったら私たちみんなも通ってきた道なので先輩に話して欲しいと思います。一人で頑張って解決しようと考えたり、悩みを抱え込まないようにして下さい。患者さんへの対応は、最初は本当にどうすればいいのか分からないと思います。なので、分からないことは1つ1つ聞いてください。確認を取らずに勝手に判断して行動に移さないように気をつけて下さい。今後、学生として独り立ちをするわけですが、私に果たして出来るのだろうか？とそんなに不安になる必要はないので焦りすぎることなく、確実に学生業務をまずはこなせるように頑張ってください。

以上

部署報告：外来

外来で腹水穿刺を開始して 5年が経過しました

外来肝チーム 蛭牟田 早瀬 関山

1 はじめに

外来では5年前より、肝硬変や肝細胞がんが進行した肝不全に伴う難治性腹水の患者を対象に、定期的(1回/1週間)に腹水穿刺(2~10L)を行っています。

外来ではこれまでに、延べ8名の腹水穿刺を行ってきました。

<「CART」という治療>

現在の対象者は2名ですが、そのうち1名に対してはCARTという治療を行っています。

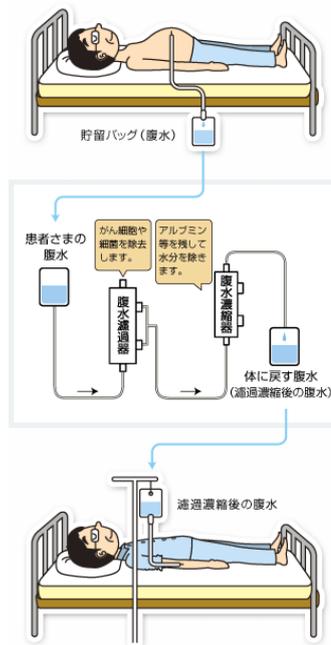
CART (Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy) とは、腹水濾過濃縮再静注法で、当院では以前より行われている治療です。ここでCARTについて少し説明させていただきます。

1.CARTの対象

利尿剤のみの治療では腹水コントロールが困難な難治性腹水症の患者

2 方法(当院)

① 腹水の採取(外来)



臨床工学技士へ連絡後、腹水を医師の指示量まで貯留バッグに採取します。

(採取速度：2L/時間)

② 腹水の濾過濃縮

臨床工学技士にて腹水の濾過濃縮処理をします。

平成 27 年度看護部行動理念 「振り返ろう、看護の原点！充実させよう、チーム医療！」

時を同じくして宅配で毎週届けてもらっている所で、今年から畑をやるというお誘いがあった。「これは良い機会」とばかりに参加申し込みした。

3 月のある日曜日、天気は雨。朝からよく降った。雨は避けられないとわかっていたため、前日仕事終わりにカーマへ直行した。これからも使用するであろう長靴とカッパを購入した。当日朝 7 時、中 1 の孫の家まで迎えに行った。小さい頃から何かと私の行事に付き合ってくれている。中学生になったら友達付き合いが主になるから、もう遊んでもらえないと思っていたが、まだ誘いには乗ってきてくれる。迎えに行ったら、シャワー中だった。「8 時には出るよ」とせかし、時間に出発。下道を走ったら遅れるかもと高速に乗った。

ぎりぎりに到着し、かっぱを着た。これで雨でも OK。雨のため、予定変更でトウモロコシの植えからミニトマトの植えに変更となった。「へっ、これが種」と思ような吹けば飛ぶような小さな種を黒いポットに捲いた。あとは土作りについてお話を伺った。その後、欲しい人だけとカブトムシの幼虫をいただいた。カブトムシの幼虫なんて初めて目にした。「でか！」「うわっ、気持ちわる！」と声が飛び交う。

次の土曜日、OB 会の畑へ行った。土が悪いらしく出来が良くないらしい。始末する作物をくわで掘り起し、食べられそうなキャベツとブロッコリーはきれいなところだけ持ち帰った。

翌々日、筋肉痛がきた。スキーやボードでは筋肉痛はこないのに、くわを 30 分持ったくらいで筋肉痛とは驚いた。

後日、宅配の会社から「土作りの話があるからどうか」とのお誘いがあり、出かけた。ミミズのいる土は悪い土、という話から、土壌の消毒は必要か、どうしたら作物をつくるのに良い土が出来るかなどのお話をうかがった。

質問コーナーではどんどん質問が飛び交い、といっても総勢 4 名の女性ばかりだが、この機会にと、OB 会の畑帰りの際に畑に撒いていた白い粉が気になり、質問した。石灰は消毒の目的で使用するが、使い過ぎると土が硬くなるということであった。

自宅ではベランダしかないため、土作りをどこでしようかと考え中だ。まずは縦長の植木鉢かポリバケツを用意しないといけない。これもまたカーマへ行かないと。

(つづく)

